

## 一 笑うて暮せ人の世の中

天地は廣し宇宙は大なり。而して其の間に存在するもの、無量無邊にして限りなし。限りなく存在するが、不思議にも一として同じものはない、皆悉く違つて居る。我も天下一品なれば、彼も亦天下一品である。天下悉く一品たるものが集まつてあると共に、更に奥深く之が本體に尋ね入らんとき、天地同根、萬物一體の眞理にぶつかることが出来る。

自ら稱して天下一品となすと雖も、吾も人なり彼も人なり、彼此の相こそかはれ人たるや即ち同一である。進んで動物と云はんか、牛も馬も蚤も虱も吾も同一である。生物と云はんか、草も木も吾も同一である。更に物といふ點に至らば、一切同一根の上に立つものではないか。茶碗は土で拵へてある吾人は米を食つて生きて居る、米は土を食つて居る、さらば米は土の子で、吾人は土の孫である、而して茶碗は土の子である、遠き昔は共に石土の仲間であつたでないか。

さて本が同じとして見れば、それから分れたものは親類である。親類は互に交際せねばならぬ。即ち萬物は互に持ちつ持たれつして居る。持たれずに生存することが出来ぬから、其の代り持たねばならぬ、これが天地の活動である、人生の意義である。

試みに一手を擧げんか、それは唯擧げたばかりでなく、空氣に反抗し排斥したのである。従つて此處に空虛が出来る。空氣は之を充すために動く、動くのはすべて引力に影響するとしてみれば、地球は太陽に、太陽は太陽系の諸星に影響するとせねばならぬ。されば宇宙全體に關係すると云つてよい。

かくて個々別々なる天地萬物は、其の源は同一體にして、互に相關聯すと云はねばならぬ。『梵網經』に曰く「一切の男子はこれ我が父、一切の女人

はこれ我が母なり、我れ生々これより生を受けざるはなし、六道の衆生は皆  
これ我が父母なり、一切の地水はこれ我が先身なり、一切の火風はこれ我が  
本體なり」と。共同生活の趣味はこれから湧いて來るのである。